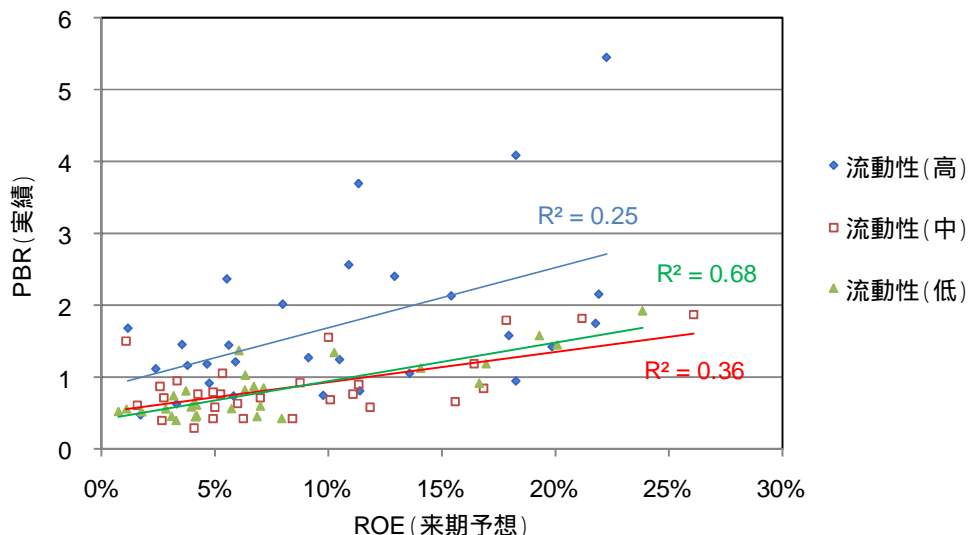


流動性ディスカウント/プレミアムについての仮説



1. 流動性の観点から比較した国内「コンテンツ」企業のバリエーション
 - a. 国内の「コンテンツ」企業を抽出し、それぞれの企業の3か月平均売買高の時価総額に対する比率を算出。
 - b. 上記比率が高いほど、「流動性が高い」と定義し、対象の企業を流動性の「高」「中」「低」の3つのグループに分類した。
 - c. それぞれの企業について来期予想株主資本利益率（ROE）と実績株価純資産倍率（PBR）の散布図を作成し、流動性の高・中・低の3つのグループで相関係数を算出。
2. 分析結果
 - a. 2009年4月8日付「コンテンツ企業のROEとPBRの相関係数について」において述べたように、理論的には $PBR = PER \times ROE$ となることから、傾きが大きいほど、バリエーションは高いことを示す。
 - b. 今回の分析では、流動性が高いほうが、傾きが大きい、すなわちバリエーションが高いという結果となり、MEC業界の市場評価においても流動性ディスカウント/プレミアムの要素が無視できないことを示唆している。
 - c. 流動性を如何にして向上させるか、については議論の尽きないところではあるが、昨今活発化している自己株買いは、一株当りの利益配分を高める効果はある反面流動性を低くするため株価に対してプラス効果だけでないと考えられる。

本件に関するお問い合わせ先: toiawase@whitenotes.jp

以上

WN MEC 分類:

弊社が MEC 業界に属すと考える上場企業の実態を調査し弊社独自の視点でセグメントを分類したものの、大分類は「コンテンツ」「施設」「メディア」「サービス」「広告・宣伝」「システム」「金融(ネット証券等)」「プラットフォーム」の8つ。

注意: 本メモランダム情報は作成時点までの信頼できるとされる各種情報、データに基づいて作成されていますが、その正確性、相当性、完全性などに対して弊社およびその情報提供者は責任を負いません。利用者が当該情報などに基づいて被ったとされるいかなる損害についても、弊社およびその情報提供者は責任を負いません。本メモランダム情報は投資・購買勧誘を目的としたものではありません。利用者は弊社メモランダムより得た情報を、利用者ご自身の判断と責任において利用していただくものとします。